

巻頭言

文学部長 荒川志津代

大学と地域との連携推進は、教育基本法の改正（2006年）によって始まりました。「大学は、（中略）これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。」条文（第7条）が新設されたのです。それ以前の理系学部を中心とした産学連携のみでなく、文系学部においても積極的な連携が求められるようになりました。その背景には、地域と大学側とにそれぞれの事情がありました。地域では、大学の知とともに「若者の力」を必要としていましたし、大学ではより実践的な知の在り方を模索していました。

本学文学部における積極的な地域連携活動は、このような背景のもと、大学を地域に開放し子育て支援を实践・研究する活動から始まりました。この先駆的試みは各地域での子育て支援活動の広がりにも貢献し、知の拠点としての使命を果たしたと自負しています。現在の学生は、各地・各施設で取り組まれている子ども支援や児童育成事業等に、こちらからボランティアとして出向き、それらを支

援活動をしています。児童教育学科ではこれらの活動を支援すべく、社会活動実習・地域実践実習として、それぞれの専攻で単位化しています。また学科として、地域の土曜授業の提供に取り組み、特色化企画として地域に開放した「まなびの文化祭」を開催しています。教員と学生によるこれらの活動は、児童のためばかりではなく、教員・学生それぞれが主体的に学び、自己の能力を高める場となっています。

大学全体では、各学部の特色を生かした教員による地域開放講座が継続的に行われています。また各学部学科の学生達はそれぞれに、地域への貢献と自身の学びを繋げようとしています。これら地域連携の目指す所は、知識提供や交流に留まらず、これらの活動を通して地域の課題を見出し、その解決に向けた取り組みへと繋げることにあります。研究と学びの拠点としての大学の役割と大学への期待を深く自覚しつつ、今後も取り組んで参ります。

●健康科学部 令和元年6月～7月(5回)、令和元年11月～令和2年2月(3回)実施

名女健康サロンの内容について

大学の役割として地域貢献活動が求められている中で、“名女健康サロン”を2019年6月～7月（5回）と2019年11月～2020年2月（3回）を本学西館ラーニングコモンズで行いました。

前半は、健康に関する「こころの健康」、「咀嚼と健康」、「睡眠とメタボ」、「頭の体操から認知症予防」というテーマで講演を行いました。後半では、前半での健康講座を発展させて、“歩行分析”、“体組成・骨密度測定”などの健康測定を実施し、参加者の方々が自分の体力や健康状態を知る機会として企画しました。それを受けて、最後の講座では“いつまでも自分の足で歩けるための正しい歩き方”というテーマで名古屋医療センターの理学療法士の先生より簡単にできる運動も学びました。さらに、クッキングとして“楽しく食べて心と体を健康アップ!”というテーマで、健康栄養学科の教員と学生と一緒に参加者の方々が、パウンドケーキとクッキーを作りました。出来立てのケーキを歓談しながら食べて楽しいひと時を過ごしました。

次年度も、継続して“名女健康サロン”を行っていきたいと思いますので、ぜひご参加お待ちしております。

(文責：福田峰子)



完成したケーキとクッキー



姿勢バランス測定風景

●健康科学部 (旧食物栄養学科3年生) 令和元年7月18日(木)・9月26日(木)

カンピロバクター 食中毒防止キャンペーン における啓発活動

名古屋市と食品安全委員会が実施するカンピロバクター食中毒防止キャンペーンの一環として、本学で啓発活動を行いました。当日は名古屋市の食品衛生監視員の方々と講習及び実験を行い、鶏肉の表面と中心の温度の違いや、人の動作を介した食中毒菌の汚染拡大の様子を実験しました。また、食堂においても食中毒防止啓発クリアファイルを配布し、本学全体の学生にも食中毒予防を呼びかけました。将来、職場等で衛生環境の確保を担う学生たちにとって貴重な経験となりました。

(文責：近藤浩代)



講義内外での啓発活動

● 家政学部 令和元年11月9日(土)実施

地域貢献をめざして！ 「名古屋市消費生活フェア」 に参加

11月9日、消費者教育ゼミの3年生7名が名古屋市オアシス21で開催された「消費生活フェア」にブース出展をしました。テーマは「意外と知らないエシカル消費で社会貢献」とし、人・社会・環境など地球に優しい消費（エシカル消費）について啓発しました。オリジナルのエシカル消費パンフレットを配ったりクイズを出題したりと、来場者に持続可能な社会の大切さについて伝えました。今後も名古屋市や地域と協働し積極的に活動していきます。（文責：三宅元子）



「エシカル消費クイズ」実施の様子

● 文学部 令和元年8月3日～11月23日(計4回)実施

瑞穂区地域子ども会育成連絡協議会 行事へのサポートと ボランティア参加

平成29年度から毎年、児童教育学専攻の学生が、瑞穂区の子ども会行事でボランティアとしてお手伝いしています。令和元年度は、にのみ池プレーパークで子どもたちと一緒に思いっきり遊び、名古屋まつりみこしパレードでは裏方として行事を支えることで子ども会活動に参加・協力してきました。地域で子どもたちの成長を支えることは大切なことです。学生も行事に参加し関わることで、子どもたちの成長を感じることができています。（文責：吉川直志）



プレーパークの流しぞうめん

● 家政学部 平成31年4月1日～令和2年3月19日(計10回)実施

尾州地域のテキスタイル企画と 産学行政連携プロジェクト

衣生活研究ゼミナールでは、津島毛織工業協同組合と協定を結び、あいち産業科学技術総合センター尾張繊維技術センターの協力を得て、尾州地域の特長ある技術を活かしたテキスタイルを企画するプロジェクトを進めました。学生は、4月から織物の基礎を学びながら、織物のデザインを企画提案し、試作した織物を使った作品を制作します。

今回は、「ドレスと毛織物を合わせる」をテーマに、「アナと雪の女王」の主人公アナとクリストフの冬の結婚式をイメージしたケープ付きドレスと



企画織物で制作したタキシードとドレス



意匠系製造に関する研修

タキシード・ベ

スト・パンツを合わせて制作しました。生地デザインのテーマは「THE MAGIC OF SNOW 雪の魔法にかけられて」です。尾州の匠の技で、雪のふわもこ感、輝き、そしてやさしさを表現しました。

完成した生地と作品は、2月19日～21日に一宮市総合体育館で開催された17th JAPAN YARN FAIR & 総合展『THE 尾州』に展示され、一般公開されました。

（文責：小町谷寿子）

● 文学部 令和元年11月発行

児童向け民生委員広報冊子の作成

文学部の美術教育・表現研究ゼミ4年生は、瑞穂区と協働して児童向け民生委員・児童委員活動の広報用冊子『民生委員って知ってる?? 何する人??』を作成しました。令和元年11月に発刊され、瑞穂区の小学校高学年全員を対象に配布されました。

このプロジェクトは、該当ゼミ生がまだ3年次の平成30年11月から開始され、瑞穂区民生子ども課の職員および瑞穂区民生委員の方々、発刊までに4～5回の打ち合わせを経て、修正や追加を求められることも有りましたが無事に完成したものです。

学生たちの具体的な活動は、民生委員の活動内容を理解し、将来の担い手となる小学生と保護者への啓蒙を狙った内容の精査をした上で、挿絵の検討と実際の作成でした。冊子内容を保育・教育の目線ととらえ、子どもたちが親しみを持ってると登場人物をキャラクター化し、色鉛筆を用いて柔らかいタッチで着色して仕上げました。

この冊子は学生にとって、ゼミナール活動や授業や実習で得た学びを総合的に活用し社会貢献できた実感が持てる成果物となりました。（文責：堀 祥子）



民生委員冊子制作風景



完成した冊子

● 短期大学部

令和元年8月～10月実施

名古屋まつりの子ども会みこしの制作指導

令和元年10月19・20日(土日)に、第65回名古屋まつりが開催されました。名古屋まつりは、昭和30年から続く、名古屋の秋を彩るお祭としても有名です。さまざまなイベントが行われる名古屋まつりの中でも、「まつり行列」は最大の呼び物です。郷土英傑行列や山車揃、神楽揃といったこの地方の文化を伝える行列が名古屋まつりを盛り上げます。また、この行列には、市内16区の子ども会がオリジナルで制作した手作りみこしによる「子ども会みこしパレード」もあります。短期大学部は、このパレードに参加する瑞穂区子ども会のみこし制作に協力しました。

みこし制作では、子どもたちが自分で考え、力を合わせて作りあげることができるように、保護者や瑞穂区役所の方々と連携してサポートしました。みこし制作は、8月から10月にかけて行われ、小中学生が力を合わせて完成させました。パレード当日には、子どもたちがみこしを担ぎ、まつり行列をさらに盛り上げました。(文責：山田勝洋)



「子ども会みこしパレード」の様子



みこし制作の様子

● 中高

令和元年6月、9月、令和2年1月に実施

クリーンキャンペーン

中高生徒会が瑞穂区役所と連携して行っている行事として長く続いているものにクリーンキャンペーンがあります。クリーンキャンペーンとは瑞穂区役所地域力推進室が中心となり、毎月25日に区内全域で様々な団体が協力して行われる区内清掃活動です。

毎月25日といっても、定期試験中や長期休暇・学校行事などを除くと年間で3回程度しかできません。今年度は6月、9月、1月に実施できました。各クラス美化委員(一部代表議員)と運動部員が交代で参加します。

毎回生徒たちは朝8時から区役所前で職員の方のお話を聞いた後、いくつかのルートに分かれて学校までの道路に落ちているゴミを拾っていきます。特に1月は凍える中での活動となるなか、充実感を持って取り組んでいます。ゴミの中にはタバコの吸い殻をはじめ飲みかけのペットボトルもあり、清掃活動しながら公共マナーを守ることの大切さを生徒たちも痛感している様子でした。

(文責：江本幸司)



瑞穂区役所にて



活動の様子

● 短期大学部

令和2年2月5日(水)実施

瑞穂区子育てサロン 「さくらひろば」 手遊び・オペレッタ発表

「さくらひろば」は、瑞穂区が子育て支援を目的として瑞穂区役所で毎月開催している子育てサロンです。2月には、保育学科の学生28名が手遊びやオペレッタ発表を行い、多くの子どもたちやお母様方と触れ合うことができました。オペレッタでは、授業での学びを生かして、子どもの遊びの視点を取り入れたオリジナルの衣装とお話を披露しました。学生は、子どもたちの笑顔から充実感と自信を得ることができ、子どもたちの反応から学びを深め、貴重な経験をさせて頂きました。

(文責：白石朝子)



オペレッタ『ヒーロー』の一場面

● 中高

令和元年夏、冬に実施

献血活動ボランティアを通して

年に2回お盆前とクリスマスの時期に、栄や名駅の街頭で献血の呼びかけを行っています。この時期は遠出やイベントで誰もが慌ただしく、献血者数が落ち込むのだそうです。そのためこの時期の呼びかけは不可欠だとのことで参加させて頂いています。

暖冬とはいえ日暮れが早く、屋外で立っていると足元から冷えこんでくる年末に、目の前を行き来する買い物中のお客さんに向かい、部員皆で一糸懸命献血を訴えました。寒空のもと頑張ったお陰か、2時間で40名ほどの方々が献血して下さいました。それはその日の半数に当たる人数だったとのことで、スタッフさんにも喜んで頂きました。微力ですがこうしたボランティア活動を通し、こちらの方が温かい気持ちにさせてもらっています。

今後も一つ一つの活動を丁寧に取り組んでいきたいと思っています。(文責：神谷弘子)



寒い中がんばりました

企画展「食に学ぶ養生のススメ」 の関連講座 記念館ギャラリートーク

事前に応募いただいた37名の参加で行われました。ギャラリートークでは今回の主な展示の一つである300年程前に書かれた『養生訓』を中心に、健康観や健康法は時代によって移り変わっていくこと、一方、養生・健康における食の役割が当時から重視されていたことを紹介しました。

人生100年時代を生きる「食と健康」に関する貴重な学園資料から、今の時代に求められる健康への先人たちの養生の知恵やことについて理解を深めていただく機会となりました。(文責：鈴木孝子)



展示解説

ギャラリートークにて
学生による機織実演を
披露

瑞穂図書館 × 名古屋女子大学 おはなしとおりがみクラフトきょうしつ

大学図書館では、地域貢献活動と、学生への社会経験の支援として、瑞穂図書館と連携した読みきかせ会を平成28年度より開催しています。令和元年度、瑞穂図書館が開館50周年を迎え様々な記念催事が計画されるにあたり、大学図書館との連携催事として、11月9日、「瑞穂図書館 × 名古屋女子大学 おはなしとおりがみクラフトきょうしつ」が開催されました。当日は「どうぶつえん」をテーマに本学絵本おはなし会に登録の学生8名と瑞穂図書館司書でどうぶつが登場する絵本の読み聞かせや手遊びと動物のおりがみ制作のワークショップを行い50周年記念催事最多の36名の来場者がありました。どうぶつ折り紙づくりでは、参加者が、用意した8種類の動物から作りたい動物を選び折り紙づくりをしましたが、中には何種類もの折り紙に挑戦する子どももいて大盛況でした。参加学生は、催事の企画から瑞穂図書館との打ち合わせ、プログラムの検討、準備など、約2カ月にわたる運用にも携わり、日頃の読み聞かせとは違った形での貴重な経験となりました。(文責：尾崎友子)



子どもたちと一緒に手あそび

おりがみワークショップ

瑞穂区の将来を考える学生ミーティング

6月13日、瑞穂区内の大学・短大が協力して、瑞穂区役所主催『瑞穂区の将来を考える学生ミーティング「FUTURE CAFE in MIZUHO」』が開催され、区内外から学生が集まりました。本学からは、健康科学部健康栄養学科1年生2名、文学部児童教育学科1年生1名が参加し、魅力あるまちづくりについて他大学の学生と意見交換をしました。

「区の特性・魅力」、「子育て」等、関心のあるテーマを選んでグループに分かれ、「もし将来、住むなら、働くなら、10年後の瑞穂区はどのようなまちになってほしいか」を考えて意見交換をしました。これらの学生の意見やアイデアは、瑞穂区の現状や課題、将来像とその実現に向けた中長期の取り組みをまとめた「瑞穂区将来ビジョン」の策定にも生かされています。

学生たちは、他大学の学生との交流を通して刺激を受けたり、自身のキャリアプランやライフプランを考えたりする良い機会となったようです。

(文責：牧野弘実)



グループワークの様子

全体での意見発表の様子

編集後記

地域連携ニュースレターも第3号をお届けすることとなりました。1号、2号に続いて、多くの地域連携事業のニュースをお届けすることができました。ご協力いただきました多くの皆様に厚く感謝申し上げます。地域に根付いた越原学園の存在を示すとともに、大学の専門性や特色を生かした地域貢献活動が発展し、また大学の活動自体もそのことで活気づくことを期待いたします。地域の健康増進を目指した「名女健康サロン」や最近問題になっている「カンピロバクター食中毒防止キャンペーン」あるいは、地域の子どもの対象とした地域子ども会との連携事業、子どもみこしの制作など、多くの活動をお伝えすることができました。また、地域の文化活動にも貢献すべく、記念館での「食に学ぶ養生のススメ」展の様子もお伝えしています。こちらは、地元ケーブルテレビでも紹介され、ご覧になった方も多かったのではないのでしょうか。地域連携ニュースレターでは今後も、こうした活動を紹介するとともに、新しい動きをお伝えしていきます。(文責：堀江信之)